

平成28年度
J R I A活動報告書

【目次】

1. 概要	1
2. 協会役員活動概要	3
3. 事業概要	
3. 1 研究産業及び産業技術の発展に関する調査及び研究事業	5
(1) 価値融合視点での研究産業のあり方調査研究等	
(2) 検査分析業に関する標準化事業 (ナノ新機能材料等分析技術向上と標準化支援)	
(3) 理工系人材活躍促進事業	
3. 2 研究産業及び産業技術の発展に関する情報の収集及び提供事業	8
(1) 産業技術重点分野技術交流（先導技術）	
(2) 専門調査研究の推進	
3. 3 研究産業及び産業技術の発展に関するシンポジウム、セミナー及び交流会等の開催	
3. 4 研究産業及び産業技術の発展に関する普及及び啓発事業	10
(1) 対話型DBシステムを活用したイノベーション人材活用戦略の策定	
3. 5 研究産業及び産業技術の発展に関する人材育成及び表彰事業	11
(1) 技術系ハイレベル人財ネットワーク事業	
(2) 技術系実務者クラス人財ネットワーク事業	
(3) 人財育成推進支援事業（研修）	
(4) 産学協働イノベーション人材育成協議会との連携事業の推進	
3. 6 研究産業及び産業技術の発展に関する独立行政法人等の科学技術上の能力、 知識及び成果の活用支援その他内外関係機関等との連絡及び協力事業	12
(1) 日本規格協会と連携した標準化活用支援パートナーシップ制度の活用推進	
(2) 国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）との連携強化	
(3) 産業研究協会世界連合（W-F I R A）の連携活動	
3. 7 前各号に掲げるもののほか、本会の目的を達成するために必要な事業	13
(1) 自主その他調査・企画	
(2) 技術開発プロジェクト等に関する企画及び事業管理	
(3) 目利き人財ネットワーク事業	
(4) 情報発信・普及・広報	
4. 協会の庶務的事項等	
4. 1 会員の状況	15
4. 2 事務局	15

1. 概要

一般社団法人研究産業・産業技術振興協会（J R I A）は、平成23年に新たに発足して5年、平成25年に律に基づく一般社団法人に移行して3年間が経過し、研究産業及び産業技術の発展に関する調査、研究等に取り組んでまいりました。平成28年度は、発足当初から厳しい経営状況が続いていることを踏まえて、平成27年度のC（評価）、A（改善）に基づくP（目標、計画（平成28年度事業計画））、D（実行（平成28年度予算））によってP D C Aサイクルをまわすという考え方に基づき事業活動をすすめることにしました。すでに、平成27年度時点におけるJ R I Aの実態「C」については、厳しい経営状況（構造的赤字体質）及び事業展開の現状と課題を踏まえ、会員ニーズの的確な把握と対応、J R I Aの強みを活かした展開が必要であり、その「A」のためには、a）新規会員勧誘、外部資金獲得、b）事業成果の見える化・事業展開の強化、c）27年度事業の見直し、付加価値向上、d）J R I Aの特長を活かした他機関と連携などが必要と考えられていました。

そこで、既存事業の発展的取り組みと最近の研究開発動向を踏まえた新規事業に取り組む観点から、具体的な事業展開におけるミッションを3つの柱、①理工系人材の育成・確保に関する支援、②先端技術分野の研究開発プロジェクト企画や標準化業を支援、③研究開発現場の先進事例・先進技術情報へのアクセスを掲げ、会員企業とのコミュニケーションの強化によってニーズを適確に把握し、総合的に推進しました。新たな取組みとして、①については、協会の強みを活かしつつ中長期的視点で会員サービス・社会貢献を図る観点から産業省の補助を受けて理工系人材のミスマッチと理系女性の活躍支援を進める「理系女性活躍促進支援事業」（補正予算）および機械システム振興協会の委託による「対話型DBシステムを活用したイノベーション人材活用戦略の策定」などに取り組むことにしました。②については、会員企業における産学官連携のR&Dを支援する観点から「戦略的基盤技術高度化支援事業」に関して、「マスクレス超低損傷加工を実現するミニマル・バイオテンプレート形成装置とミニマル中性粒子ビームエッチング装置の開発」及び「サイレントチェンジ対策／スクリーニング分析用質量分析装置・技術の開発研究」の2テーマについて競争的資金の獲得及び事業管理支援（補正予算）を行うとともに、会員企業のニーズなどに応じて先端技術研究会の場を臨機応変活用し、ロボティックバイオロジーなどの展開について検討をすすめました。③については、当初の事業計画に位置づけていたJ K A補助事業の申請が不採択になりましたが、運営のスリム化を進めることによって支出削減を図りつつ、協会の自主事業として人工知能、再生医療などの先端技術、食の安全などの社会貢献といった新たなテーマを加えて推進することにしました。

これらの取り組みにより、平成28年度の期初予算の段階では38百万円の赤字が見込まれていましたが、会員数の減少傾向が横ばいになり、経費削減や補助事業の新規獲得等に努めた結果により収支が8百万円程度改善される見込みであり、一定の改善効果があったと評価できます。

上記のとおり、「経営改善元年」ともいえる取り組みを開始しましたが、依然として年間30百万円程度の赤字を計上する厳しい経営状況が続き、今まで進めてきた年度単位の短期的事業展開では大幅な収益事業化・収支バランスの確保を図られないことの繰り返しになる可能性があり、平成28年度の決算見込みによれば、資産は1億円を割り込み95百万円（前年度比30百万円減）となることから、このままの経営を継続すれば3年後には経営破綻することになります。

そこで、平成29年度から始まる2年間（第4期）を見通した中長期的観点に基づく事業展開の課題と展望について検討を始め、新たなP D C Aサイクルとして、平成32年度までの4年間を視野に

入れた中長期的観点に基づく J R I A の事業展開（中長期ビジョン）を定め、その目的・目標の実現に向けて、平成 29 年度から 2 年間（第 4 期）の中期的な事業展開の方針に基づいて、平成 29 年度の事業計画および収支予算を策定することが必要との判断に至りました。

中長期ビジョンについては、定款に定める目的・事業の展開のため、持続可能な組織体制のもとで一般社団法人として会員に対する共益事業や会員以外をも対象とした収益事業を設計する必要があるという観点から、運営委員会、総合役員会、理事会、総会を経て組織的コンセンサスを形成しつつ、確実な実現のためのガバナンスとフォローアップする体制として、経営改善委員会（委員長：石原廣司会長）を設置することにしました。

J R I A は広範・多様な企業会員で構成され産業技術の発展等を目的としているため、事業展開の自由度が大きいメリットがありますが、業界団体、研究開発団体のような特定分野・目的の会員サービスに特化するメカニズムが働きにくいことがデメリットになる可能性があります。また、会費収入が低位安定し資産が減少している状況下、新規事業への積極投資による改善を企図することは現実的ではないため、短期的に収支改善に効果がある小規模事業の推進を図ること、政府等の補助金・委託費を活用して事業支出の節約を図りながら収入増加に貢献する事業に着手することが重要です。J R I A の特長を活かしメリットの最大化、デメリットの最小化を図るための考え方として、「産学官・異業種連携による「人材、技術、スピード」でイノベーション展開を支援」を掲げ、新体制が発足する平成 29 年 5 月に向けて中長期ビジョンをとりまとめているところです。

2. 協会役員活動概要

9月14日 第12回総合役員会・第14回理事会・総会（書面審議）
（出席理事） 石原会長・斉藤副会長・橋本副会長・末廣副会長・館野理事・獅山専務理事
（議題）

- （1）平成28年度事業計画（改正案）並びに補正予算案承認の件
 - （2）平成28年度活動概要と進捗状況報告の件
 - （3）総合役員会幹事の辞任による退任および候補者承認の件
 - （4）書面審議総会開催・決議の件
 - （5）その他
- ・理系女性活躍促進支援事業に対する協力願いの件
 - ・協会パンフレットの改訂案の件

9月14日 八大学工学系連合会との意見交換会
（出席理事） 石原会長・斉藤副会長・橋本副会長・末廣副会長・館野理事・獅山専務理事

○「中長期的観点に基づくJRI Aの事業展開の課題と展望」について意見交換。

9月28日 石原会長・獅山専務理事
11月2日 斉藤副会長・獅山専務理事、末廣副会長・獅山専務理事
11月4日 橋本副会長・獅山専務理事
11月9日 金岡副会長・獅山専務理事
11月11日 館野理事・獅山専務理事、小林監事・獅山専務理事、津山監事・獅山専務理事

1月26日 第13回運営委員会
（出席理事） 獅山専務理事

2月7日 検査・分析ハイレベル会合
（出席理事） 金岡副会長・末廣副会長・小林監事

2月14日 「中長期的観点に基づくJRI Aの事業展開（(仮称)中長期ビジョン）」
について意見交換
（出席理事） 石原会長・橋本副会長・金岡副会長・末廣副会長、館野理事・小林監事
獅山専務理事

2月27日 第14回運営委員会
（出席理事） 獅山専務理事

3月8日 第13回総合役員会、第15回理事会

(出席理事) 石原会長、齊藤副会長、金岡副会長、橋本副会長、獅山有邦専務理事
(津山監事、小林監事)

(議題)

- (1) 中長期観点に基づく J R I A の事業展開
「(仮称) 中長期ビジョン」の策定について (案) (報告)
- (2) 平成28年度活動概要と決算見込み (報告)
- (3) 平成29年度事業計画 (案) と収支予算案承認の件 (審議)
- (4) 新規会員入会の件 (審議)

その他報告

- ・活動成果報告会プログラム案

4月24日 企画評価WG

(出席理事) 獅山専務理事

- (1) JKA 補助事業の自己評価 (審議事項)
- (2) JKA 平成29年度補助事業概要
- (3) 機械システム振興協会受託事業 (報告事項)
 - ① 平成28年度事業成果報告
 - ② 平成29年度事業計画
- (4) 中長期ビジョンと平成29年度事業計画について (報告事項)
- (5) その他 成果報告会案内 (報告事項)

5月8日 第一回経営改善委員会

(出席理事) 石原会長、副会長、末廣副会長、獅山専務理事

(議題)

中長期観点に基づく J R I A の事業展開

「(仮称) 中長期ビジョン」の策定について (案) (意見交換)

5月16日 第15回運営委員会

(出席理事) 獅山専務理事

3. 事業概要

3. 1 研究産業及び産業技術の発展に関する調査及び研究事業

(1) 価値融合視点での研究産業のあり方調査研究等

【技術系人材委員会】

「イノベーション創出に貢献できる人材をどう育てるか」に焦点をあて、外資系企業、サービス系企業等の先進事例調査を進めました。イノベーション人材育成には、トップの思い、また、従来型とは異なったイノベーションの芽を育てるマネジメントスタイルが重要なことが各講演で浮かび上がりました。

- 7月 5日 第1回技術系人材委員会 コーン・フェリー・ヘイグループ 山口周氏
「世界で最もイノベティブな組織のつくり方」講演会
- 11月 1日 第2回技術系人材委員会 ジェイテクト 武田稔産学連携推進グループ長
「ジェイテクトにおけるNo. 1 & Only Oneの取組み」講演会
- 11月21日 第3回技術系人材委員会 日立製作所 川村肇グローバル人財戦略部担当部長
「日立グループのグローバル人財戦略」講演会
- 12月 5日 第4回技術系人材委員会 リクルート 井上功エグゼクティブプランナー
「新事業創造企業リクルートグループの強みと成長の仕組み」講演会
- 2月 7日 第5回技術系人材委員会 ラーニング・アントレプレナーズ・ラボ 堤孝志氏、
飯野将人氏「企業内新規事業創出の新たなアプローチ」講演会

また、JRI A、研究・イノベーション学会及び科学技術・学術政策研究所の共催により、6月2日に第1回WS「イノベーション創出に貢献できる人材に求められる能力要素」を開きました。

パネルディスカッション第1部：人材に求められる能力要素

パネリスト： GEヘルスケア 伊藤久美氏
慶応義塾大学 前野隆司教授
経済産業省 宮本岩男大学連携推進室長

パネルディスカッション第2部：各セクターにおける人材育成への取組と課題

パネリスト： ソフトバンク 源田泰採用・人材開発統括部長
筑波大学 金子元久特命教授
文部科学省 北山浩士高等教育局専門教育課長
文部科学省 斎藤尚樹科学技術・学術政策研究所総務研究官

【環境技術調査委員会】

環境技術調査委員会：温暖化対策技術として、本年度は「CO₂有効利用」、「小規模分散型資源有効利用」の可能性を中心に講演・訪問調査を進めました。

温暖化の原因となっているCO₂を悪者ではなく、有用な原材料として取り扱う、様々な技術が提案されました。

- 7月21日 第1回環境技術調査委員会 首都大学東京 井上春夫特任教授
「人工光合成技術の現状と展望」講演会
- 10月14日 第2回環境技術調査委員会

- 東京大学 堀教授「EV社会に向けた無線給電」講演会
- 1月16日 第3回環境技術調査委員会
東京理科大学 杉本裕教授「CO2の有効利用技術の現状と展望」講演会
- 1月31日 第4回環境技術調査委員会
NEC 岡田義昭主席事業主幹「ビッグデータの取り組みご紹介」講演会
- 2月21日 第5回環境技術調査委員会
三菱総合研究所 杉下寛樹研究員「2016年度 世界の環境政策の動向と今後の見通し」講演会
三菱総合研究所 高島由布子環境価値戦略グループリーダー「国内外の環境ビジネス市場の概況 2016年度版」講演会

【研究開発マネジメント委員会】

昨年度行った価値共創を含めた形で価値融合をとらえ、オープンイノベーションを中心として、聴講調査、訪問調査の候補を列举し、活動を進めることにしました。

- 6月20日 第1回研究開発マネジメント委員会
今年度の活動方針及び調査候補列举
- 7月26日 第2回研究開発マネジメント委員会
(一社) コラボ産学官江原専務理事 「コラボ産学官の活動紹介」講演会
- 9月15日 第3回研究開発マネジメント委員会
ウィルソン・ラーニング・ワールドワイド(株) 三浦英雄様
「越境リーダーシップ」プロジェクトについて 講演会
- 10月25日 第4回研究開発マネジメント委員会
経済産業省 産業技術政策課長 渡邊政嘉様
「J0IC「オープンイノベーション白書(初版)」について 講演会
Road to Silicon Valley 主催 高岡淳二様
「シリコンバレーと日本との架け橋プロジェクト」について 講演会
- 11月28日～29日 山形県鶴岡地区訪問調査
鶴岡市先端研究産業支援センター
慶應義塾大学先端生命科学研究所
- 12月9日 第5回研究開発マネジメント委員会
株式会社リバネス 執行役員 CRO 坂本信一郎様
「リバネスの事業について、L-RADを中心として」 講演会
- 2月22日 訪問調査
富士フィルム オープンイノベーション・ハブ

【検査・分析委員会】

検査・分析委員会委員会は昨年同様2つのワーキンググループ（WG）に分かれて活動しました。

（WG 1）

検査・分析動向調査とし検査分析機関へのアンケート調査を実施しました。例年実施している調査であり定点観測の意味を持ちます。約500社に対して調査票を発送し、1/3の機関（167社）から回答を得ることができました。現在、データ解析中で今年度中に報告書をまとめ、5月31日の成果報告会にて詳細を報告する予定。

（WG 2）

経済産業省 基準認証経済連携室 松本室長から「認定・認証に係る国際動向」に関して10月17日に講演いただきました。今年度事業として計画していたTPP成立による影響調査につきましては、米国の政権交代により不透明な状況になったことからテーマを見直し、適合性動向調査（17025改定）として継続することとしました。

訪問調査として東日本大震災後の福島・宮城方面の環境、食品中の放射線の状況、除染等今後の対応についてヒアリングのため、福島県環境創造センター、福島県ハイテクプラザおよび東北大学 放射能災害再生工学研究センターを訪問しました。土壌の除染の難しさ、食品の放射能は検出されない現在においても風評被害を懸念し全数検査をせざるを得ない状況である点が当該地区の大きな悩みであることが理解できました。詳細は5月31日の成果報告会にて報告します。

（開催履歴）

4月26日	検査・分析準備委員会
6月15日	第一回検査・分析委員会
7月6日	第二回検査・分析委員会
9月6日	第三回検査・分析委員会
	経済産業省 基準認証経済連携室 松本室長ご講演
10月17日	第四回検査・分析委員会
11月14日	第五回検査・分析委員会
12月14日	第六回検査・分析委員会
1月23日	第七回検査・分析委員会
2月20日	第八回検査・分析委員会
3月13日	第九回検査・分析委員会
4月17日	第十回検査・分析委員会

（2）検査分析業に係る標準化事業（ナノ新機能材料等分析技術向上と標準化支援）

〔公益財団法人JKA競輪補助事業〕

ナノ元素分析標準化検討委員会にて、3ヵ年計画の2年目の検討を開始しました。今年度は昨年度の分析結果を踏まえ、より検討の深耕を深め、最終年度につなげるための重要年度と位置づけ、前倒しのスケジュールで臨むこととしましたが、今年度試作試料の製造プロセスの不具合発生トラブルにより、約3カ月の遅延が生じました。これを挽回すべく計画を見直し、

今年度の目標を達成しました。

5月16日	第1回ナノ分析標準化検討委員会	今年度の年間計画策定
7月15日	第2回ナノ分析標準化検討委員会	今年度の分析・測定項目の詳細検討 及び日本規格協会 標準化活用支援パートナーシップ制度の説明
11月10日	第3回ナノ分析標準化検討委員会	今年度試作試料の進捗状況報告及び既存試料測定実施項目の仕様決め
12月21日	第4回ナノ分析標準化検討委員会	試作完成試料の測定実施計画及び既存試料測定結果の解析
2月14日	第5回ナノ分析標準化検討委員会	

(3) 理工系人材活躍促進事業

[経済産業省平成28年度補助事業]

「理工系人材の不足」や「産業界の人材ニーズと大学生のスキルとのミスマッチ」の問題に対応するため、理工系人材育成に関する産学官円卓会議が設置され、8月2日に理工系人材育成に関する産学官行動計画（以下、「行動計画」という。）がとりまとめられました。

JRIAは経済産業省と連携のもと、この行動計画を踏まえ、会員企業ひいては産業界の理工系人材に関するニーズに応える観点から、平成28年度経済産業省補助事業「理系女性活躍促進支援事業」を活用して、平成30年卒業生に対し「学生が就職を希望する業種毎に、産業界が学生に求めるスキルを簡単に把握することができるシステム」の開発に取り組り組み、3月17日よりWebシステム「リケジョナビ」として情報公開を開始しました。

システム開発については、経済産業省、大学成績センターと実務者会議を開催するとともに、CSPコンソーシアム内山東平理事長、アクア社、コスモゲート社と契約して進めました。また、理工系学生のキャリア形成、専攻分野の知識の構造化に関する情報収集のため東京大学と情報交換しています。

また、現役の理系女子学生のニーズを把握する観点から、内閣府が開催する「女性技術者の活躍推進に関するシンポジウム（10月8日）、理工系女子応援ネットワーク会議（10月20日）に出席するとともに、「リケジョ誌」を編集している講談社、東京理科大学、静岡大学、お茶の水大学等と意見交換を進めました。

3. 2 研究産業及び産業技術の発展に関する情報の収集及び提供事業

(1) 産業技術重点分野技術交流（先導技術）

産業技術重点分野の先端技術革新を推進する産学官の「知」のネットワークを強化し、様々な企業規模・業種の参画による我が国独自のイノベーションにつなげていくことを目指し、引き続き先導技術交流事業を推進しました。今年度は、アンブレラとしての先導技術研究会の下に、「幹事会」を中心として人工知能などの講演会、訪問調査を開催し「シンポジウム・講演会」を開催するとともに、新たに会員企業のニーズを受けて「専門調査研究会」を設置して特定分野で深掘りをするなどの活動をしました。

第1回の幹事会で具体的な活動方針を議論した結果、今年度は先端技術領域を横断する形で「人工知能（AI）」、「先端材料」をテーマに取り上げ、主に大学・国立研究開発法人の研究者に

幹事会での話題提供をお願いするのに加え、外部会場での講演会を開催することとしました。

「人工知能 (AI)」関連では、10月に元電総研所長の田村浩一郎氏より「日本の AI 研究秘話」と題して話題提供いただき、1月には高木 周東京大学大学院教授に「「京」コンピュータによる人体シミュレーション」と題して講演いただきました。2月には、日本アイ・ビー・エム東京基礎研究所の武田浩一氏に「IBM Watson とコグニティブ・コンピューティングの展望」と題して話題提供していただきました。

「先端材料」関連では11月に大越慎一東京大学大学院教授にお願いし、「高機能酸化物材料～蓄熱セラミックス～」と題してご講演いただきました。

シンポジウムに関しては、来年2月1日に「次世代再生医療の基礎と夢～細胞機能制御（臓器形成）への医学、工学的アプローチ～」と題して、産総研との共催により産総研臨海副都心センターにて開催しました。

また、幹事会では「先端材料」関連で、「つくば地区」の調査見学会を12月1日に開催し、国立研究開発法人物質・材料研究機構（NIMS）の構造材料研究拠点及び国立研究開発法人産業技術総合研究所（AIST）製造技術研究部門を訪問しました。2月2日～3日には北九州地区の調査見学会を開催し、北九州学研都市、安川電機「みらい村」「ロボット工場」、TOTO、サンアクア TOTO 等を訪問しました。

- | | |
|---------|---|
| 6月17日 | 第1回先導技術研究会・委員会 |
| 8月9日 | 第1回幹事会 |
| 10月26日 | 第2回幹事会 話題提供 田村浩一郎氏
日本の AI 研究秘話 |
| 11月15日 | 第3回幹事会 話題提供 大越慎一先生
「高機能酸化物材料～蓄熱セラミックス～」 |
| 12月1日 | つくば地区調査見学会
NIMS 構造材料研究拠点及び AIST 製造技術研究部門 |
| 1月25日 | 先導技術研究会・講演会 高木 周先生講演
「京」コンピュータによる人体シミュレーション |
| 2月1日 | シンポジウム
「次世代再生医療の基礎と夢
～細胞機能制御（臓器形成）への医学、工学的アプローチ～」 |
| 2月2日～3日 | 北九州地区調査見学会 |
| 2月22日 | 第4回幹事会 話題提供 武田浩一氏
「IBM Watson とコグニティブ・コンピューティングの展望」 |

(2) 専門調査研究の推進

専門調査研究会としては、「駐車場システム」、「食の安全」をテーマに予定し、以下の活動を展開しました。

1 2月19日 第1回「食の安全」専門調査研究会 東京農業大学客員教授 丸山清明氏講演

1月19日 第2回「食の安全」専門調査研究会 農林水産省 吉岡 修氏講演

1月30日 第1回 地域社会インフラ・システム研究会

また、専門調査研究会の発展形として、ロボティックバイオロジーコンソーシアムの設置に向けて準備をしています。

なお、先進医療機器技術専門調査研究会については具体的なテーマの設定には至らなかったため特段の活動を展開しませんでした。関連テーマとして、1月25日には高木周先生による講演「「京」コンピュータによる人体シミュレーション」を、2月1日にはシンポジウム「次世代再生医療の基礎と夢～細胞機能制御（臓器形成）への医学、工学的アプローチ～」を開催しました。

3. 3 研究産業及び産業技術の発展に関するシンポジウム、セミナー及び交流会等の開催

2月1日シンポジウム「次世代再生医療の基礎と夢～細胞機能制御（臓器形成）への医学、工学的アプローチ～」を共催：産業技術総合研究所（AIST）、後援：一般財団法人バイオインダストリー協会（JBA）、日本製薬工業協会（製薬協）、グライコバイオロジクス研究会、幹細胞評価基盤技術研究組合のもと、産総研臨海副都心研究センターで開催しました。

3. 4 研究産業及び産業技術の発展に関する普及及び啓発事業

(1) 対話型DBシステムを活用したイノベーション人材活用戦略の策定

〔一般財団法人機械システム振興協会委託事業〕

我が国の民間企業等では、企業経営の戦略的な展開にかかわるような部門においても、判断する当事者自らが企業の成長や経営環境の変化に即応して改修・改善できる業務システムの導入が遅れている。平成27年度は、このための新しい業務システムの有効性を示すとともに普及を図るための戦略を策定することとし、業務項目からアプリケーションが自動生成できる開発手法を調査し「GeneXus」の有効性が分かった。

平成28年度は、企業の人事関係者が人材決定の際に必要な人事関係情報を効率的に抽出して利用することを可能とし、かつ、サステナブルに進化し続ける人事システムの基本モデルとして、研究開発におけるイノベーション人材の情報管理を例に、人工知能を視野に入れた対話型DBシステムの構築について検討し、イノベーション人材のデータを取集し、その凡例の特性を18のイノベーション人材要素として、定量化と統計処理をした。その結果、人材評価、人材の特質に合わせた育成支援として利用できる可能性があることが分かった。また、プレゼンテーションツールによる対話型DBシステムの検討では、業種・企業の風土・方針等に合わせた上記の要素の変更・追加はITの専門的な知識がなくても自由にでき、また各要素に重みづけも可能とする例を示すことができた。本年5月の成果報告会では、企業における展開を目指し、基本機能を備えたプレゼンテーションツールについて説明する予定です。

5月23日 第1回サステナブル委員会

6月17日	第1回サステナブル委員会	人材部会
6月30日	第1回サステナブル委員会	システム部会
7月22日	第2回サステナブル委員会	
9月14日	第2回サステナブル委員会	人材部会
9月26日	第2回サステナブル委員会	システム部会
10月26日	第3回サステナブル委員会	システム部会
10月28日	第3回サステナブル委員会	
11月25日	第3回サステナブル委員会	人材部会
12月26日	第4回サステナブル委員会	システム部会
2月10日	第4回サステナブル委員会	

3. 5 研究産業及び産業技術の発展に関する人材育成及び表彰事業

(1) 技術系ハイレベル人財ネットワーク事業（CTO交流会）

CTO交流会は今年度から現地見学会と講演を取り入れ、対象者も若手研究者にまで広げて開催しました。

5月13日 (第53回) ものづくり施設「DMM.make.AKIBA」を見学
参加者 12社16名

7月21日 (第54回) 産総研臨海センター 「人工知能研究センターの講演・視察」
参加者 19社26名

今後の運営方針の検討に活かすため、第54回CTO交流会において今後の交流会の進め方についてアンケートを実施しました。その結果、対象者を広げた交流会企画に多くの賛同をいただきました。場所は首都圏の研究機関、分野としては人工知能の希望がありましたが、一部には関西圏の開催実績がなく、アンケートでも要望があった電池の評価技術に高い技術を有するKRI（京都）において4月28日に開催しました。

4月28日 (第55回) 株式会社KRI
「リチウムイオン電池の評価設備視察とチウムイオン電池および革新電池の現状と展望に関する講演」
参加者 14社17名

また、今までのCTOクラスの交流会も引き続き開催してほしいとの要望もあり、研究機関のトップクラスの人物との意見交換会（研究産業戦略懇談会）を検討しているところです。

(2) 技術系実務者クラス人財ネットワーク事業（産業技術懇談会）

1月31日「イノベーション政策について」

今後の主な取り組みと平成29年度経済産業省予算案について～
経済産業省 産業技術環境局 産業技術政策課 八木 春香氏

(3) 人材育成推進支援事業（研修）

昨年度の成果を踏まえつつ、新たな技術視点を持つイノベーション対応力の高い企業技術者の育成を目標として、産総研等公的研究機関の若手による新鮮な技術課題の発表会を通じて、参加者の新規技術分野への展開を支援する企画をすすめています。

若手・中堅研究者をメンターとするテーマを絞った新技術コンテンツを順次蓄積していきます。

(4) 産学協働イノベーション人材育成協議会、八大学工学系連合会との連携事業の推進

(一社)産学協働イノベーション人材育成協議会と6月1日に中長期インターンシップ事業に関しMOUを締結しました。MOUはイノベーションを創出する力を有する高度理系人材の輩出を目指す大学と企業における連携活動の普及と発展を図ること、科学技術上の能力、知識及び成果の活用支援等を行うことにより、研究開発の支援等に努め、もって我が国産業の発展に資することを目的としています。

八大学工学系連合会とは9月12日に会員企業との意見交換会を開催しました。大学からは研究費の不足、博士の就職状況に関し問題点が提起されましたが、今後も引き続き意見交換会を通じ産学の連携方法について模索していくことが合意されました。

さらに、9月30日に開催された八大学工学関連研究科長等会議に出席し、外国人留学生に関する課題等について意見交換を行いました。その結果等を踏まえて、八大学側からの委託により海外からの留学生に関する採用状況、および今後の対応方針について会員企業の協力を得てアンケート調査を実施しました。八大学工学系研究会としては、この調査結果を踏まえて、平成29年度の提言をとりまとめる予定としており、JRI A会員企業と大学との共通課題としてさらに連携強化を検討しています。

3. 6 研究産業及び産業技術の発展に関する独立行政法人等の科学技術上の能力、知識及び成果の活用支援その他内外関係機関等との連絡及び協力事業

(1) 日本規格協会と連携した標準化活用支援パートナーシップ制度の活用推進

9月28日に開催された標準化パートナーシップ機関交流会に出席し、先進的取組及び国際標準化支援ツールに関する情報収集を行った。これらの情報は、異業種機関との連携のもとに国際標準化を推進しようとする企業との意見交換等に活用しています。

また、検査分析業に係る標準化事業（ナノ新機能材料等分析技術向上と標準化支援）とも密接な関係あることから、同制度の活用方法を検討することから始めることにしました。

7月15日 第2回ナノ分析標準化検討委員会

日本規格協会 標準化活用支援パートナーシップ制度の説明（渡辺 道彦氏）

12月21日 第4回ナノ分析標準化検討委員会においてメンバーにリマインドしました。

(2) 国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）との連携強化

・若手の博士研究者を基礎研究から製品化研究までをカバーする産総研独自のカリキュラムにより民間企業等で即戦力として活躍できる人材として育成することを目指す産総研「イノベーションスクール制度」の運用に関して連携強化を進めています。具体的には、企業からの研究テーマを集約し、そのテーマに取り組む研究者を企業現場で実践的研修（インターンシップ）を行うため、アンケート調査に協力しています。

・技術交流事業と連携して、重要技術での産総研各分野と企業の連携・交流の場を設定しています。

7月 7日 企業アンケート調査協力

8月 9日 先導技術研究会・幹事会（再掲）

10月26日 先導技術研究会・幹事会（再掲）

12月 1日 先導技術研究会 産総研つくば見学会（再掲）

(3) 産業研究協会世界連合（W-F I R A）の連携活動

5月3日に開催された産業研究協会世界連合（W-F I R A）に参加するとともに、併せて開催された連携活動EIRMAの50周年カンファレンス「第4次産業革命」に参加し、情報収集・交換を行いました。

3.7 その他

(1) 自主その他調査・企画

平成27年度の機械システム振興協会委託事業のうち、「触感の測定・表現法に関する戦略策定」では、成果の活用例として品質管理、人工指の開発等の分野における展開を提示し、「高齢化社会における安全、安心、便利な駐車場システム戦略策定」では、地域の拠点である商業施設の新たな価値を創造するため、付設駐車場を含めたエリア全体を最先端のセンシング・知的情報処理によって高度化する統合駐車場システムの将来像(青写真)を提示しました。これらの戦略策定に参画した産総研、大学、民間企業の研究者を中心として、今後の具体的展開に向けた意見交換を行っています。

【触感測定法研究会】

平成27年度の成果を元に、より精度の高い測定装置によって、触感の測定を進めています。

8月10日 第1回委員会

11月14日 第2回委員会

1月12日 第3回委員会

2月 8日 第4回委員会

3月 9日 第5回委員会

3月13日 第6回委員会

【地域社会インフラ・システム研究会】

大規模駐車場を核とし、地域の生活者・来訪者などに対して、安全・安心・便利を提供するための総合的サービスの基盤となる社会インフラのあり方と具体化に向けた道筋を検討するとともに、最先端のセンシング・知的情報処理・人工知能技術を活用し併せて地域産業の持続的発展の基盤となる地域総合空間創造するための見守りコンシェルジュサービスの構想づくりについて検討しました。その結果を、平成29年度（一財）機械システム振興協会受託「地域総合空間創造のための見守りコンシェルジュサービスに関する戦略策定」に反映しました。

1月30日 第1回委員会

(2) 技術開発プロジェクト等に関する企画及び事業管理

会員企業や大学・産総研などが保有する技術シーズで、単独の企業では迅速かつ着実に事業

化に結び付けることができないようなリスクが大きな案件について、産官学・異業種による連携を図りながら、基礎研究段階から事業化に向けた応用技術、製品開発、標準化・市場開発戦略など、その研究開発段階に応じて、技術開発プロジェクト等に関する企画及び事業管理を行うなどにより、総合的に支援を行う目的で活動してまいりました。その結果、平成28年度、戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）について、リソテックジャパン株式会社等が推進する精密加工技術に関する「マスクレス超低損傷加工を実現するミニマル・バイオテンプレート形成装置とミニマル中性粒子ビームエッチング装置の開発」（ミニマルFAB）及び株式会社神戸工業試験場等が推進する測定計測技術に関する「サイレントチェンジ対策／スクリーニング分析用質量分析装置・技術の開発研究」の提案を企画支援し、採択後は事業管理機関として契約等の事務、研究開発委員会の設置・運営、経済産業省中間評価ヒアリング等の対応と支援を行いました。

（サイレントチェンジ対策）

10月31日 準備会議

11月21日 第一回研究開発委員会

1月13日 第二回研究開発委員会

1月18日 経済産業省中間評価ヒアリング

（ミニマルFAB）

10月25日 第一回研究推進委員会

12月19日 第二回研究推進委員会

1月16日 経済産業省中間評価ヒアリング

中間評価の結果、双方とも平成29年度継続プロジェクトとして承認されました。

（3） 目利き人財ネットワーク事業

2030年の日本にとって必要な技術開発テーマの提案を目指した活動を進めています。

9月14日 第1回委員会

ドゥリサーチ研究所 西尾治一社長「21世紀の社会システム」講演会

（4） 情報発信・普及・広報

平成28年度は、これまでの事業目的を全面的に見直し、既存事業の発展的取り組みと最近の研究開発動向を踏まえた新規事業に取り組む観点から、事業展開におけるミッションとして3つの柱、①理工系人材の育成・確保に関する支援、②先導技術分野の研究開発プロジェクト企画や標準化業を支援、③研究開発現場の先進事例・先進技術情報へのアクセスを掲げ、会員企業とのコミュニケーションの強化によってニーズを適確に把握し、総合的に推進することにしました。

そこで、キックオフにあたる5月31日の成果発表会において、上記を概説するとともに新たにパネルディスカッションを導入しました。

協会のホームページは、これに先立ち4月1日から見やすさ、使いやすさを大幅に改善したりニューアル版で運用開始しました。また、10月には、JRI Aのミッションに関する説明などのためにパンフレットを改訂し、特に理系女性活躍促進支援事業、技術開発プロジェクトの企画・検討などの場で活用しています。

4. 協会の庶務的事項等

4. 1 会員状況

正会員、賛助会員および特別賛助会員の状況は次のとおりである。

	正会員	賛助会員	特別賛助会員	合計
平成 28 年 3 月 31 日現在	49	21	22	92
入 会	1	1	0	2
退 休 会	5	8	0	13
平成 29 年 5 月 8 日現在	45	14	22	81

注1) 特別賛助会員の入会 22 団体は、旧 (財) 日本産業技術振興協会の理事、評議員に就任していた団体からの移行である

4. 2 事務局

(1) 総会

第4回通常総会

日 時：平成 28 年 5 月 31 日 16:30～17:10

場 所：KKRホテル東京 11階 朱雀の間

議 決：承認可決

参加数：出席 48 社 (代理出席、書面表決含む)

第 1 号議案 平成 27 年度事業報告並びに決算報告の承認の件

第 2 号議案 平成 28 年度事業計画並びに収支予算の承認の件

第 3 号議案 役員 (理事) の選任に関する承認の件

第 4 号議案 理事会で決議された総合役員会幹事の選任に関する承認の件

臨時総会

日時：平成 28 年 9 月 13 日～9 月 26 日

議決：承認可決

第 1 号議案 平成 28 年度活事業計画 (改正案) および平成 28 年度補正予算 (案)

第 2 号議案 総合役員会幹事退任および候補者選任の承認の件 (案)

(2) 理事会

第 13 回理事会

日 時：平成 28 年 5 月 31 日 16:05～16:20

場 所：KKRホテル東京 11階 松の間

① 平成 27 年度事業報告並びに決算報告の承認の件

② 平成 28 年度事業計画並びに収支予算の承認の件

③ 新規会員加入の件

④ 役員 (理事) の選任に関する承認の件

第14回理事会

日時：平成28年9月12日 15:45～16:00

場所：KKRホテル東京 11階 桜の間

- ① 平成28年度事業計画改正と補正予算の承認の件
- ② 平成28年度活動概要と進捗状況の報告の件
- ③ 総合役員会幹事の辞任による退任および候補者承認の件
- ④ 書面審議総会開催・決議の件

(3) 総合役員会

第11回総合役員会

日時：平成28年5月31日 15:30～16:00

場所：KKRホテル東京 11階 朱雀の間

理事会に附議・報告すべき事項

- ① 平成27年度事業報告並びに決算報告の承認の件
- ② 平成28年度事業計画並びに収支予算の承認の件
- ③ 新規会員加入の件（審議）
- ④ 総合役員会幹事の辞任による退任および候補者決定の件
- ⑤ 平成28年度JKA及び機械システム振興協会提案事業について（報告）

第12回総合役員会

日時：平成28年9月12日 15:00～15:45

場所：KKRホテル東京 11階 白鳥の間

理事会に附議・報告すべき事項

- ① 平成28年度事業計画（改正案）並びに補正予算案承認の件
- ② 平成28年度活動概要と進捗状況報告の件
- ③ 総合役員会幹事の辞任による退任および候補者承認の件
- ④ 書面による臨時総会開催・決議の件

(4) 運営委員会

第11回運営委員会

日時：平成28年5月19日 10:00～12:00

場所：一般社団法人研究産業・産業技術振興協会 会議室

第11回総合役員会、第13回理事会、第4回総会提出議題

- ① 平成27年度事業報告並びに決算報告の承認の件
- ② 平成28年度事業計画並びに収支予算の承認の件
- ③ 新規会員入会の件（予定）
- ④ 理事・副会長候補者の就任辞退に関する対応について
- ⑤ 役員（理事）の選任に関する承認の件

第12回理事会 承認済み議案のため、総会のみ

運営委員会議題

- ① 平成27年度入退会の状況（報告）
- ② JKA補助金事業の不採択について（審議）
- ③ R&D支援事業について（審議）
- ④ 理系女性活躍促進支援事業の取り組みについて（審議）
- ⑤ 企画・評価WGの評価について（審議）
- ⑥ 企画・評価WGの活動について（審議）
- ⑦ 平成28年活動成果報告会について

第12回運営委員会

日時：平成28年8月26日 15:00～17:00

場所：一般社団法人研究産業・産業技術振興協会 会議室

第12回総合役員会、第14回理事会提出議題

- ① 平成28年度活動概要と進捗状況（報告）
- ② 平成28年度事業計画・補正予算（案）（審議）
- ③ 書面審議総会提案の件（審議）
- ④ 幹事交代の件（報告）
- ⑤ KA補助金事業の不採択について（審議）

運営委員会議題

- ① 協会内人事異動（連絡）
- ② 八大学工学系連合会との意見交換会について（報告）
- ③ 協会紹介用パンフレット見直し（報告）
- ④ 「リケジョアンケート」への協力のお願ひ（報告）

第13回運営委員会

日時：平成29年1月26日 15:00～17:00

場所：一般社団法人研究産業・産業技術振興協会 会議室

- ① 運営委員交代および新規委嘱
- ② 中長期的観点に基づいたJRIAの事業展開のあり方（報告・討議）
- ③ 平成28年度決算見込（案）
- ④ 平成29年度収支予算（案）

第14回運営委員会

日時：平成29年2月27日 15:00～17:00

場所：一般社団法人研究産業・産業技術振興協会 会議室

第13回総合役員会、第15回理事会提出議題

- ① 平成28年度活動概要及び決算見込みについて（報告）
- ② 中長期観点に基づくJRI Aの事業展開（中長期ビジョン）
について（審議）
- ③ 平成29年度事業計画及び収支予算（案）について（審議）
- ④ 新規会員加入および退会（報告）

運営委員会議題

- ① 「中長期観点に基づくJRI Aの事業展開（中長期ビジョン）」
について（審議）
- ② ロボティックバイオロジーコンソーシアム（仮称）の設立について（審議）

第14回運営委員会

日時：平成29年5月16日（火） 14:00～16:00

場所：一般社団法人研究産業・産業技術振興協会 会議室

第14回総合役員会・第16回理事会・第5回総会提出議題

- ① 平成28年度事業報告並びに決算報告の承認の件
- ② 「中長期観点に基づくJRI Aの事業展開（中長期ビジョン）」について
- ③ 平成29年度事業計画並びに収支予算の承認の件
- ④ 新規会員加入の件
- ⑤ 役員（理事及び監事）の選任の件
- ⑥ 総合役員会幹事の選任に関する承認の件

第17回理事会（総会后）提出議題

- ① 会長・代表理事、副会長・代表理事、副会長・理事、専務理事 選任の件
- ② 事務局長委嘱の件
- ③ 顧問推薦の件

運営委員会議題

- ① 運営委員交代の件
- ② 平成29年活動成果報告会について

(5) 企画・評価WG

第29回企画評価WG

日時：平成28年4月25日 15:00～17:00

場所：一般社団法人研究産業・産業技術振興協会 会議室

- 議題：① JKA 補助事業 自己評価について（審議）
② 本年度の活動計画（審議）

- ③ 平成28年度 JKA補助事業について（報告）
- ④ 平成28年度 機械システム振興協会テーマについて（報告）
- ⑤ その他（報告）
 - ・ 協会ホームページのリニューアルについて
 - ・ 成果報告会案内

第30回企画評価WG

日時：平成29年4月24日（月） 15：00～17：00

場所：一般社団法人研究産業・産業技術振興協会 会議室

- 1) JKA 補助事業の自己評価（審議）
 - ① 平成27年度 自己評価 II 2件（価値共創・ナノ分析）
 - ② 平成28年度 自己評価 I 1件（ナノ分析）
- 2) JKA 平成29年度補助事業概要（報告）
 - ① ナノ分析（FS）
- 3) 機械システム振興協会受託事業（報告）
 - ① 平成28年度事業成果報告
対話型DBシステムを活用したイノベーション人材活用戦略の策定
 - ② 平成29年度事業計画
都市知能のアーキテクチャの実現
- 4) 中長期ビジョンと平成29年度事業計画について（報告）
- 5) 成果報告会案内（報告事項）

(6) 役員懇談会

日時：平成29年2月14日 12：00～14：00

場所：交詢社

議題：「中長期観点に基づくJRIAの事業展開（中長期ビジョン）」
について（議論）

(7) 第一回経営改善委員会

日時：平成29年5月8日 14：00～17：00

場所：学士会館

議題：「中長期観点に基づくJRIAの事業展開（中長期ビジョン）」
の策定について（議論）